

やんばるの豊かな山々を学びの場に

宜野座村立松田小学校 校長 伊波和子

やんばるの山々が生命の輝きにあふれる2月～3月。濃緑の中に、次々と芽吹く木々の新緑が彩りを添え、朝日を浴びて輝く姿は荘厳そのもの、また朝もやの風景も何とも言えず幻想的な空間を作り出し、その美しさに魅せられて何度か車を止めて鑑賞したものでした。



安波小中学校へ通った三年間。やんばるに生まれ育ったにも関わらず、やんばるの自然について知らないことが多く、驚きの毎日でした。夕方になると学校裏の森から聞こえてくる「ケッケッケー」という甲高い鳴き声におびえる私に、子ども達が「あれはヤンバルクイナが恋人を呼んでいるんだよ」と教えてくれました。早朝や夕方餌をもとめて歩く姿を発見した時にはその美しさに感動したものです。また、裏山から「トントントン」と木をたたく音がしたこともありました。生徒達は、「ノグチゲラが樹の幹をたたく音だよ」といい、見つけきれない私に根気強くその場所を教えてくれました。しばらくして餌を運んでくる親鳥や雛のすがたも見えました。子ども達は、それらを観察し記録を取り続けていました。自分達の住む地域の自然について学び、その保護のために、根気強く取り組む子どもたちに沢山のことを教えてもらいました。

そんな、貴重な生き物ややんばるならではの植物が数多く生息しているやんばるの森は、子ども達にとって学びの宝庫です。そこでの体験は子ども達の心を刺激し、豊かな心や豊かな学びの芽になってくれるに違いありません。これからやんばるの森を守り育てていくのが、やんばるの子ども達であってほしいものです。そのためにも、是非、国有林の公益的利用として、野外活動や自然観察などのできる場所を作ったり、案内できる人材を育成したりして、学びの環境を整えてほしいと思います。

また、私は、今回漢那ダムまつりのオープニングセレモニーへの参加のため、子ども達を引率した事で、沖縄森林管理署の活動を知りました。そこには、沖縄の国有林野森林・林業の大切さについてパネル展や森林クイズ、リュウキュウマツの板材を利用した親子木工教室がありました。子ども達と一緒にパネルを見ながらクイズに答えたり、木工教室に参加したりと楽しみました。その素晴らしさに感動し、是非松田小学校にいらしてほしいとお願いしたところ去る2月に、5年生の親子への出前講座が実現しました。「森の役割とそれを守る人々の仕事」についてお話頂いた後、親子木工教室の指導をして頂きました。事前に板材に保護者からのメッセージや本人の決意が書いていましたので、世界に一つしかない「私のイス」が出来上がり、「13祝いのいい記念になりました」と大好評でした。森で働く人々の少ない地域ですので、キャリア教育の面からも貴重な体験となりました。このような機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。

